

発行元 株式会社アークフラッシュ本部

東京都新宿区百人町 2丁目 26番 9号

<http://www.arc-flash.co.jp>

アークフラッシュ施工された老人施設 6年間インフルエンザの発症が報告されておりません。

< * > <http://www.arc-flash.co.jp> **新着施工写真を更新いたしました**

桜満開の季節となりました。

<< インフルエンザ情報 >>

安徽省衛生部は 28 日、国家衛生部に対して同省で鳥インフルエンザウイルスの感染、発病による死亡者が発生したと報告した。

死亡したのは同省蚌埠市の 16 歳の男子生徒。17 日に肺炎の症状が出たため 18 日から入院治療したが、27 日夜に死亡した。調べにより、鳥インフルエンザ高病原性 H5N1 ウイルスに感染していたことが判明した。患者が感染の疑いがある鳥類と接触していたかどうかは不明。人や動物へのその他の感染は確認されていない。

<< 施工報告 >>

キャンピングカーの施工 (エコリーディング)



パナホームの施工 (エコリーディング)



<<もはや MRSA は病院内だけではなくなった>>

医療施設内ではなく日常生活の場で感染する「市中型」のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) に感染した関東地方の 1 歳男児が昨年、肺炎で死亡していたことが分った。市中型 MRSA は、健康な子どもや若者に感染することが多く、欧米で問題になっているが、国内で確認された死亡例は初めてという

男児は、発熱やせきなどの症状を訴えて受診した病院で肺炎と診断され、北里大病院に入院した。抗生物質などの治療を受けたが症状は改善せず、入院 10 日目に死亡した。体内から MRSA が検出された。

検査の結果、院内感染する菌とはタイプが異なる市中型で、しかも強毒性だった。感染経路は不明。

<<補足>>

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) は、1960 年代に病院感染の病原菌として認識され、手術、長期療養施設への滞在、透析、カテーテル留置など特定の危険因子を有する入院患者に発症する病院型病原菌と考えられてきた。しかしながら、最近では、そのような危険因子を有しない、病院外 (市中) の患者においても、発症がみられるようになってきており、これらを市中型 MRSA 症例と呼んでいる。今回、市中型 MRSA 症例について、疫学的、微生物学的特性について、病院型 MRSA 症例と比較検討した。

2000 年 1 月 1 日 ~ 12 月 31 日に、ミネソタ州中央検査機関 12 箇所において特定された MRSA 感染症患者における前向きコホート研究を行った。MRSA 感染者 1,100 人中、市中型 MRSA 症例は 131 人 (平均年齢 23 歳)、病院型 MRSA 症例は 937 人 (68 歳) であり、32 人は情報不足のため分類不能であった。市中型の臨床所見では、病院型と比較し、皮膚および軟組織の感染症が多かった (75% 対 37%、OR, 4.25、95% 信頼区間 2.97-5.90)。微生物学的特性としては、市中型 MRSA 分離株は、4 種類の抗菌薬に対し感受性を有するものが多かったが (補正後 OR, 2.44、95% 信頼区間 1.35-3.86)、市中型症例の多くは、感染株が感受性を有しない抗菌薬で治療開始されていた。また、市中型 MRSA 分離株は、一変量解析、多変量解析ともに、パルスフィールドゲル電気泳動による 2 つのクローン群の、いずれかの 1 群に属することが多かった。さらに、市中型 MRSA 分離株は、通常、病院型 MRSA 分離株と異なる外毒素遺伝子特性 (例 ; Panton Valentine leukocidin 遺伝子) を示すことが認められた。

以上より、市中型 MRSA 症例と病院型 MRSA 症例では、人口統計学的特性および臨床像が異なっていることが認められた。また、その分離株も微生物学的に明らかに異なっていた。このことは、大部分の市中型 MRSA 菌株は医療施設に由来したものではないことを示唆しており、その微生物学的特性が市中における感染症発生に関与していると考えられる。今後、臨床医は、ブドウ球菌が原因菌と考えられる感染症に罹患した重症の外来患者の治療には、もはや経験的治療法としての **ラクタム系抗菌薬による治療には頼れない、とらことを認識しておくべきであろう**

<<札幌では結核大汚染>>

札幌市は 30 日、同市内の高校に通う女子生徒が結核に感染、発病し、同級生ら 70 人も感染したと発表した。

市によると、女子生徒は昨年 12 月、せきや熱などの症状を訴えて市内の病院で受診。結核感染が判明したため入院し治療を受け、3 月末までに退院した。同級生 67 人とその家族 3 人の感染も分かった。発病はしていない。

市は、対象を女子生徒と同じ学年の生徒全体に拡大して調査するとともに、2 週間以上発熱やせきが続く場合は早めに受診を」と呼び掛けている。

札幌のアークフラッシュインダストリーがこの事情を事前に警告し市に対して予防処置を講じるように進言していましたが、事故になってしまい非情に残念です

*** 発行責任者 株式会社アークフラッシュ本部
笹川 透**

03-5337-7275 FAX 5337-7465 sasagawa@arc-flash.com

1 号 ~ 68号までを配信希望の方はメールにて申込 ください。